

# 泉南市教育委員会会議 令和4年第10回定例会会議録

## (1) 日時・場所

令和4年10月17日(月)

午後3時00分 開会 午後4時10分 閉会

泉南市役所 大会議室

## (2) 教育委員会出席者

富森 ゆみ子	教育長
片木 哲男	教育委員会委員(教育長職務代理者)
藪内 進	教育委員会委員
太田 淳子	教育委員会委員
湊 久晶	教育委員会委員

## (3) 事務局出席者の職氏名

岡田 直樹	教育部長
桐岡 秀明	教育部次長
高山 智史	教育部参事兼教育総務課長
西本 隆志	教育部参事(学校給食センター担当)
水田 好彦	生涯学習課長
西本 哲也	教育部参事(青少年センター館長)
岩崎 誠	指導課長
鳴戸 大輔	人権国際教育課長

## (4) 休憩・遅刻等について

## (5) 会議録署名者の氏名

富森 ゆみ子  
太田 淳子

泉南市教育委員会会議 令和4年第10回定例会 議事日程

令和4年10月17日(月)午後3時00分 開会

泉南市役所 大会議室

日程番号	議案等の番号	件名
日程第1		開 会
日程第2		会議録の承認
日程第3	報告第1号	会議録署名者の指名
日程第4	報告第2号	教育長報告
日程第5		事務局報告
日程第6		(1) 教育委員会事務局職員の人事異動について
日程第7		(2) 泉南市教育問題審議会について
日程第8		(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について
日程第9		(4) 市立中学校生徒自死事案にかかる保護者会について
日程第10		その他
日程第11		・泉南オープンウォータースイミング大会 2022 の開催結果について
日程第12		・2022年度第2回実用英語技能検定(英検)準会場受験の受験者数について
日程第13		・JETプログラムメンバーについて

## 午後3時00分開会

○冨森教育長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから泉南市教育委員会会議令和4年第10回定例会を開催いたします。

出席者が過半数であり、定足数に達しておりますので、会議は適法に成立いたしました。

それでは、これより日程に入ります。

日程第1、会議録の承認についてお諮りいたします。

泉南市教育委員会会議令和4年第9回定例会会議録は、既に案として委員の皆様へ配付をいたしており、確認をいただいておりますので、原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○冨森教育長 全員異議なしと認めます。

よって泉南市教育委員会会議令和4年第9回定例会会議録は、承認することに決定いたしました。

次に、日程第2、会議録署名者の指名を行います。

本日の会議録署名者は、泉南市教育委員会会議規則第13条により、教育長のほかに教育長において太田委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

それでは、日程第3、報告第1号、教育長報告を議題といたします。

(報告開始)

それでは、今日は座って失礼します。

皆様、改めましてこんにちは。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

最初に御報告がございます。10月27日に片木委員が令和4年度地方教育行政功労者表彰(文部科学大臣表彰)を、11月2日に前泉南市教育委員会委員、柳澤委員が令和4年度泉南市自治功労者表彰を受けられます。誠にありがとうございます。

10月に入りまして、各地様々な行事が行われております。後ほど報告が改めてございますが、

10月9日日曜日にはタライサザンビーチで泉南オープンウォータースイミング大会2022が行われました。気温も低めで、午後からは雨も降っておりましたが、無事に開催しております。関係者にお聞きしたところ、タライサザンビーチは、りんくうタウンのsisりんくうタワーでありますとか、関西国際空港などが目印となっていて、海中を泳いでいても方向が比較的分かりやすいということです。参加された方が、新たな人を誘っていただいて、オープンウォータースイミングと言えば泉南市となっていくとよいかと思っております。

また、同じ日に、小中学生の実用英語技能検定(英検®)も行われました。特に小学生にとっては中学校が会場だったため、机の大きさなども違い、雰囲気違って少し緊張したのではないかと思います。無事に終了しております。

また、10月13日には、教育委員会評価委員会が行われ、JETプログラムを活用した取組などについて、評価委員会委員からも高く評価をいただいているところでございます。

また、泉南市立小中学校再編計画<複数案>について御審議いただいております。教育問題審議会も次回11月の会議で答申がまとめられる予定となっております。今後も継続して検討していくべき課題はございますが、ようやく方向性が出せる状況にまとまりつつあるということをまずは御報告いたします。

また、この会議の直前の本日13時から15時に、前回も御紹介させていただきました国の「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議が開催されました。今回は、教育委員会の機能強化・活性化のための方策等についてと、教育委員会と首長部局との効果的な連携の在り方についての2点について、ヒアリングや議論がなされております。資料について共有させていただきますので、前回同様、お時間があるときに御覧になっていただければと思っております。

私からは以上です。

ただいまの報告に対し、御質問や御意見等がございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本報告を終了いたします。

(報告終了)

次に、日程第4、報告第2号、事務局報告を議題といたします。教育委員会事務局職員の人事異動について、岡田教育部長から報告がございます。

**○岡田教育部長** それでは、報告第2号、事務局報告(1)教育委員会事務局職員の人事異動について御報告いたします。資料は、人事異動(令和4年10月1日付)を御覧ください。

課長級で、西本教育部参事(学校給食センター担当)が改めて泉南市立学校給食センター担当で、教育部に帰ってきて来ております。学校給食センターの大きな変革の時期に担当することになっております。

公民館でございますが、文化振興課の主幹兼公民館係長として、福祉保険部から野口主幹が来て来ております。

3段目、これまで文化振興課公民館係長でありました、笠原係長が税務課へ出て出ております。

一番下の表ですが、主任級で、生涯学習課生涯学習推進係中尾主任が総務部の総務課へ、そして、これまで教育委員会委員皆様の御担当をしてしておりました、教育総務課総務係森岡主任が総務部税務課へ出て出ております。替わりまして、総務部総務課から西川主任が、改めて教育総務課総務係へ来て来て来ております。

この異動の後、資料裏面に職員配置図となっております。水色の部分で示しておりますのが、今異動のありました3か所となっておりますのでよろしくお願いいたします。

教育委員会事務局職員の人事異動については、以上でございます。

**○冨森教育長** ただいまの報告に対し、御質問

や御意見等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、次に、泉南市教育問題審議会について、高山教育部参事兼教育総務課長から報告がございます。

**○高山教育部参事兼教育総務課長** 現在の泉南市教育問題審議会の進捗状況について、御報告させていただきます。報告第2号、事務局報告(2)泉南市立小中学校再編計画(複数案)について(報告)を御覧ください。

泉南市立小中学校再編計画(複数案)について、泉南市教育問題審議会にて御審議していただいております。令和4年1月から7回にわたり開催していただいております。次回、11月4日が最終になる予定で、それに伴いまして前回A案で答申しようということになっております。

A案とした理由については、アンケートにおいて、保護者・市民のほぼ半数がA案を支持し、第7回教育問題審議会出席の全委員がA案を支持され、また学校等公共施設調査特別委員会もA案を支持ということを中心に3つの理由としております。

同時に、資料にもありますとおり、見直し時期や検討課題も3点ずつ記載しておるのですが、もう少し細かいこともあったかと思うのですが、その辺りも盛り込んだ形で11月4日の第8回教育問題審議会において答申を作成し、その後、教育長に答申される予定となっております。

以上です。

**○冨森教育長** ただいまの報告に対し、御質問や御意見等はございませんでしょうか。

特に検討課題のところ、JRより山手に学校が残らないのはどうかという御意見があり、信達小中学校を信達中学校敷地に建築するという話がありましたが、そうすると今の信達小学校をあと30年ぐらい使わないといけなくなる

ため、信達中学校敷地に児童生徒が入るようになるためには、老朽化対策をどうすればいいのか、あと通学路の話や見直し時期をどうするかというような話が主に出ておりました。いかがでしょうか。

太田委員、お願いします。

○太田委員 2. 見直し時期の3つ目「課題が出た時点で見直すと言った柔軟な対応」と書かれています。まだこれから検討していただくということなのですが、A案という、4中学校区そのまま残るということになっているはずですよ。40年の計画の見直し時期において、やはり人数が減少したため3中学校区にするのか、そうではなく4中学校区のまま計画を見直しするということと違ってよいのですか。

○冨森教育長 高山教育部参事兼教育総務課長。

○高山教育部参事兼教育総務課長 現在、我々が出している児童生徒数の推計で考えますと、この4中学校区のままということなのですが、これから先、人数が急激に減るかもしれませんし、逆に増えるかもしれません。そういうことも踏まえた課題が出てきた時点で柔軟に見直していくこととなります。3中学校にするか5中学校にするか、色々な可能性があるかと思うのですが、現在はA案、A2案、新B案の中のいずれかということなので、A案の4中学校区という形になっています。

○冨森教育長 いかがでしょうか。  
太田委員。

○太田委員 4中学校区が残るということで賛成されている方もたくさんいらっしゃいます。見直し時点で3中学校区になってしまう可能性があると思うので、そこはしっかりと見直し時期のところを明確に検討いただいて、中学

校区が減ってしまう場合であっても、誤解がないよう前もってしっかりと説明等をしていただけたら、市民の皆様も納得していただけるのではないかと思いますので、よろしく申し上げます。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。  
高山教育部参事兼教育総務課長。

○高山教育部参事兼教育総務課長 委員がおっしゃるように、再編計画の内容と違うじゃないか、4中学校区だったのではないかと、そんなことにならないようしっかりと検討した上で調整を図りたいと思います。

○冨森教育長 よろしいでしょうか。  
ほかに何かございませんでしょうか。  
片木委員、お願いします。

○片木委員 2. 見直し時期の3つ目ですけれども、「課題が出た時点で見直す」というのは、4中学校区をベースにしながら、そして課題が出るというのは、例えば西信達義務教育学校が先にできるとして、その後、残った3つの中学校について見直しを行い、そこから2中学校にするのは非常に難しい判断になるかと思えます。この課題が出た時点というのは、2校目の建設が終わってから課題が出たときにどうするのか、そのあたりが非常に難しいと考えます。そのため、見直すのは微調整ということで受け取ってよいということなんですか。基本的な4中学校区体制を見直すのか、微調整が必要であれば行うことと捉えてよいのか、そのあたりをもう少し分かりやすく記載した方がよいのではないかと思います。

○冨森教育長 いかがでしょうか。  
高山教育部参事兼教育総務課長。

○高山教育部参事兼教育総務課長 表現方法

を少し考えてみたいと思います。

○**冨森教育長** 泉南市教育問題審議会の答申は、文書で提出されます。今回の資料は、箇条書きで端的に書いているため伝わりにくいと思いますが、40年間の長い計画となります。そのため、一度決めたら必ずこの計画のままで行くというよりは、40年前の学校と今の学校も全然違うため、新しい課題などが見つければ、最初の計画に固執し過ぎず、その時期に応じて柔軟に対応するというような趣旨ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

片木委員。

○**片木委員** 泉南市教育問題審議会で方向性が決まるわけですが、例えば、これまでの教育委員会会議の中で、信達小学校と信達中学校の子どもの人数も少なくなってきましたが、さらに、子どもの人数が少なくなった場合どうするかということが議論になっていたと思います。この見直しの時期として、西信達義務教育学校を新築してから1、2年後に見直すというのは、残された3中学校が大きな課題を背負ってしまうという気がしてならないです。西信達小中学校自体が1つの中学校区として独立しているのかという議論もあったと思うのですが、残った3中学校区をどうするか、見直しの時期の表現について、検討いただけたらと思います。

○**冨森教育長** 高山教育部参事兼教育総務課長。

○**高山教育部参事兼教育総務課長** 見直し時期に記載しているため、少し誤解を与えてしまっているかと思うのですが、西信達義務教育学校を建築して1、2年後に検証ということで、新しい学校をつくりその中で子どもたちの教育内容や、こういう建物でよかったのか、そのようなことを検証しましょうということで記

載させていただいております。それで、見直し時期については、少なくとも15年以内、第2期の終わり頃には見直ししましょうと記載させていただいているところです。

○**冨森教育長** 泉南市で義務教育学校を作るのは、西信達義務教育学校が初めてですので、どういう成果・効果があるのか、課題があるのかというのを、次に活かしていくという意味での検証ということで、それを一から作り直すという趣旨ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

片木委員。

○**片木委員** 現在は、中学校と小学校を同じ敷地に建築する計画ですけれども、可能性としてこの小学校は残したほうがよいということで、中学校と一緒にせずに校舎の分離型で小中一貫教育を行うことも含めた見直しということも考えられるのでしょうか。

○**冨森教育長** 高山教育部参事兼教育総務課長。

○**高山教育部参事兼教育総務課長** 先ほど太田委員の御質問にありましたように、児童生徒数の推移とか、市の財政状況も含めて、その時々によってベストなものが浮かんでくるのではないかと考えられますので、そのベストな時期によりベストな形で見直しをしていくものと考えております。

○**冨森教育長** ほかに何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは続きまして、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、岩崎指導課長から報告がございます。

○**岩崎指導課長** それでは、日程第4、報告第2号、事務局報告(3)令和4年度全国学力・

学習状況調査の結果について、御報告いたします。

資料にはページ数がついておりまして、1ページから34ページまでございます。まず、小学校の結果の概要につきましては1ページから15ページ、中学校の結果の概要につきましては17ページから30ページとなっております。そして、生活習慣や意識に関する調査（児童生徒質問紙調査の結果）の結果が31ページです。

これを受けまして、令和4年度学力向上の各種施策につきまして、32ページ以降に記載がございますので、順に御説明させていただきます。まず、3ページをお開きください。

小学校の結果の概要でございます。令和4年度は表のそれぞれ右端になってございます。国語と算数についてお示ししております。ここ3年間、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の関係で、しつ皆調査は実施されませんでしたので、省略しまして、平成31年度、令和3年度、令和4年度の結果になってございます。

泉南市としまして、正答率が国語につきましては、今年度61%の正答率、算数においては59%の正答率でございました。これを大阪府の平均と比べた結果が真ん中の表でございます。大阪府の平均値を1.0といたしまして、泉南市の国語と算数の変化ですが、まず国語につきましては、平成31年度から見れば、令和4年度は正答率はやはり低いものの、昨年度の結果よりは府平均に近づいたという傾向が見られます。一方、算数につきましては、この3年間の中でやや府平均を下回っており、平均正答率に追いつかないという状況が見られます。

次の4ページをお開きください。それぞれの教科で見た図式でございます。

まず、小学校の国語でございますが、一番上の枠囲み、折れ線グラフと帯グラフで示している内容を申し上げますと、平均正答率61%でございました。全国との比較では4.6ポイント、大阪府との比較では3ポイント下回っております。

下のグラフを見ていただきますと、12問でピークとなっている全国や府の正答数に対しまして、泉南市は帯グラフですが4問、7問、10問、この3つのピークとなる傾向が見られております。

その下、2番の学習指導要領の内容の平均正答率の状況でございます。国語の問題は全部で14問ございました。それぞれ上から、学習指導要領の内容と評価の観点と問題形式による14問のそれぞれの内訳が出ております。どれも対府比で見ますと、表の右の縦の列ですが、0.9台でございます。これをどの分野においても領域においても、大阪府の平均を上回ることがなかったことが見られます。

5ページに参ります。

表の中で左が問題番号とございます。全部で14問ございますが、大きく1、2、3の問題でそれぞれ章設問がございます。出題の趣旨、それから問題の形式が選択式なのか、短く答えるものなのか、記述するものなのか、と分かれておりまして、それぞれの正答率、無解答率というものがございます。その色つけをしております正答率を御覧ください。

全国で色つけをしております上から1一、それから1三、そして2一（2）、一番下の3四、全国でそれぞれ色をつけておりますが、85.5%、84.7%、70.6%、77.9%とあります。これは下の枠外※下線部にも書いておりますが、通過率というものを表してございます。この通過率は何かというと、全国で正答率が70%以上の正答率があった。つまり、この問題は比較的全国的にも子どもたちは正解していますねという問題を表しています。

それに対して、本市ではどれぐらいの正答率なのかと申しますと、1一は79.1%でございます。飛んで1三の82.5%、それから2一（2）は70%を本市は超えておりません。一番下の3四で72.3%、いわゆる通過率というものが4問中、泉南市では3問が通過している。割合で言えば75%であるということで、これは本来

100%でなければならないという考え方になります。

一方、この国語に関しまして1二、本市正答率70.8%とございます。言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えるという趣旨の問題に関しては、この問題は全国、大阪府よりも高い正答率を示したということで、四角囲みで表してございます。

下の考察でございますが、先ほど申しました点も含めまして、一番下の記述式の問題に対しては、対府比からも分かりますように、日頃の学習指導の中から自分の意見や考えを「書く」場面を設定すること、これを意識的に設けていくということが必要ではないかと分析しております。

次の6ページ、7ページを御覧ください。

6ページは、特に課題の見られた設問、7ページは成果の見られた設問をお示ししております。特に課題が見られた、まずは左上の3三ウの漢字の書き取りなのですが、「親しむ」という漢字、これにつきまして子どもたちはどれほどの正答率、または無解答率だったのかというのは、5ページに戻っていただきますと御覧いただけます。3三ウ、下から2つ目でございます。全国が67.1%の正答率、府は65.4%に対し、本市は56.5%の正答率、それに対し、無解答率は14.2%ということで、「親しい」という漢字を書く、書き取りをするということも含めてそういう課題が見えてまいります。

また右側の問題番号2二、条件を与えて設けられているんですけども、2つの条件を言われているにもかかわらず、一方の条件しか満たしていないという解答が見られたということで、制限時間の中でしっかり読み取って、その条件に合わせて書くということが求められていると思われまます。

一方、7ページの成果の見られた設問ということでいきますと、両問とも話し合いの様子の一部から考察をしていくという問題なんですけれども、普段の学習指導から対話的な活動を

多く入れているということで、そういった場面を想像しながら解答ができたのではないかなと思っております。

国語は以上でございます。

続きまして、8ページに参りまして算数でございます。

本市正答率59%、全国との比較では4.2ポイント、府との比較では4ポイントを下回ってございました。府や全国を見ますと、13問でピークを示しておりますが、本市を見ますと、まず1問、9問、それから11問から13問までの間、この3か所で正答数がピークとなる傾向が見られております。算数の問題は全部で16問ございました。領域別で分類され、右端の対府比で見ますと、やはりどれも1.0を超えているものはございません。どれも府の平均には及ばなかったというそれぞれの分類の結果でございます。

9ページに参りまして、問題番号、それぞれの16問の問題でございますが、正答率の欄を御覧いただきましたら、通過率というところがございます。全国で70%を超えた正答率が6問ございます。そのうち本市では同じように7割を超えているものが4問ということで、6分の4という結果になってございます。

ただし、ここで顕著に目立つのが次の右側の無解答率でございます。色をつけているのが、全国や大阪府に対して上回っているもの、特に算数の問題、1(2)を見ますと4.4、これは全国、府ともに3.0に対し、1.4ポイント上回っています。これを見ますと、算数の問題につきましては、無解答率が比較的多いなということが分かります。

次の10ページを御覧ください。

算数につきましては、様々な領域がございませす。数と計算、図形の問題、測定、関数のように変化と関係を表すもの、また新たにデータの活用ということが入っております。

特に、考察中央の課題の見られた設問として、最小公倍数を求める問題ですけれども、14と21



の最小公倍数にそろえて考えますということから、14と21を瞬間的に見て恐らく最大公約数である7と誤った解答をしているのではないかとということが考えられたりします。また、下の問題番号の4(3)でございしますが、ひし形を描いていくという、一つ一つの作業プログラムのどれを行っていけばきちんとしたひし形が完成できるのだろうというような問題でございしますが、この2問に関して課題が見られたということです。

9ページに戻っていただきますと、1(2)の正答率を見てください。表の上から2段目になりますが、全国では72.2%の正答率に対し、本市では61.7%ということで10ポイント以上の差が開いているということで、しっかりと問題を最後まで読み、理解をし、何を求められているのかということに落ち着いて対応することが必要ではないかと考えております。

11ページに戻りまして、成果の見られた設問につきましては、問題番号1(1)、いわゆる1050×4の計算であるとか、割合の問題、2(2)の1000ミリリットルに対しての40%は何ミリリットルでしょうかという問題では、成果が見られたとなっております。

続きまして、12ページに参ります。

小学校の理科でございします。ちなみに理科につきましては、これは3年に一度の調査でございしますので、3ページの小学校の結果の概要には理科は載せてございしません。国語と算数のみになっております。

理科につきましては、平均正答率58%でございまして、全国との比較では5.3ポイント、府との比較では2ポイント下回ってございします。全国や府では、13問や14問でピークを迎えています。本市は4問、9問、11問の3か所でピークとなる傾向が見られました。

また、下の分類、全問題数17問のうち、それぞれの分類の対府比を見ましても、どこも1.0を超えておらず、あえて言うならばA区分の「エネルギー」を柱とする領域に0.993と、何

とか大阪府の平均には近づいているのかなというのが見られるところでございます。

続きまして、13ページに参りますが、これも先ほどと同じように正答率のところに着色しておりますが、70%を超えている比較的易しい問題、この通過率につきましても100%を目指したいというところですが、6問中4問というところでございます。また、併せまして無解答率につきましても、算数ほど多くはございせんが、問題の半数近くの9問の無解答率が全国、府に比べて多いという傾向がございします。

14ページをお願いいたします。

課題が見られた設問につきまして、この器具の名前は何ですかと、答えは「メスシリンダー」なんです。例えばビーカーであるとか、フラスコ、そういった名前があつて器具の名称をしっかりと正しく知る、学ぶということが必要になってくるかと思っております。

15ページの真ん中、成果の見られた設問としては、昆虫の特徴である「頭、胸、腹」に「3対6本のあし」、こういうことをしっかりと理解できていたのかなと思います。あと、その問題番号3(4)につきましても、結果がどうなるということではなくて、どういった変化、理由、根拠によって説明ができるかということが大切であると、この問題は本市として結構できていた方だと思っております。小学校の結果の概要につきましては以上でございします。

続きまして、17ページの中学校の結果の概要に参りたいと思います。

国語と数学をお示ししております。国語につきましては、対府比で見ますと、平成31年度、令和3年度の調査からこの3年間で最も対府比に近づきました。一方、数学につきましては、対府比からかなり離れているという傾向が見られます。特に数学は、系統性が強い教科です。小学校段階からの知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成が求められるものだと強く感じたところでございします。

各教科で見えてまいります。18ページをご覧ください。

ださい。

国語でございますが、平均正答率 64% で全国との比較では 5 ポイント、府との比較で 3 ポイント下回っているところですが、12 問でピークとなる全国や府の正答数に対しましては、3 問、9 問、12 問で 3 つのピークが見られるという傾向でございます。

下の 2 学習指導要領の内容の平均正答率の状況の分類別ですけれども、3 か所で対府比が 1.0 を超えている箇所もございます。得意なところ、そうでないところが顕著に出ているものと思っております。

19 ページを御覧ください。

正答率の通過率でございますが、70% を超えている問題は、全国で 8 問ございます。そのうち本市では 6 問が通過しており、70% を超えているというところが見られます。超えたとしてもなかなか全国の正答率に近づかない数値も見られる中では、もっと頑張っていきたいと思っております。

併せて、無解答率についても、小学校の国語と違って中学校の国語における無解答率も全国や府に比べて少し高い傾向を示していることが分かります。

20、21 ページを御覧ください。

課題の見られた設問と成果の見られた設問となっております。次に、22 ページを御覧ください。

中学校数学でございます。平均正答率 41% ということで、全国との比較では 10.4 ポイント、府との比較で 10 ポイント下回っているという傾向でございます。全国、府の正答数は 9 問でピークとなっているのに対して、本市では 1 問、4 問から 5 問、9 問、これで 3 つの山ができるのですが、そういう傾向が見られております。

下の学習指導要領の内容の平均正答率の状況の分類別の対府比を見ますと、先ほどは 0.9 台が多かったんですけれども、ここでは 0.8 台ないし 0.7 台という数字が見られまして、かな

り解答が難しかったという傾向がございます。

23 ページを御覧いただきますと、通過率につきましても 4 問中 1 問のみ、また無解答率も問題番号 4 番と 5 番の問題は、全く無解答がなかったという部分でもあるのですが、一方ではほかの問題に関しては全部、府、全国より高い割合を示しているというところがございます。

24 ページを御覧ください。

考察のところで、国語と比べますと非常に課題点が多く見られています。特に、領域の多い数学に関しては、「A 数と式」の領域の結果を見ますと、基礎基本の定着が図れていない。また、小学校段階からの積み上げ、こういったところが全てミックスされた調査問題だと思っております。

課題の見られた設問については、素因数分解や連立方程式、また三角形の証明を問われる問題、25 ページの成果の見られた設問では、折れ線グラフからどういうことが言えるかという選択式の問題、またグラフを見て予想する問題ということで、こういったところで見分ける問題というのは結構解けている方なのかなと思われました。

続きまして、26 ページを御覧ください。

中学校理科ですが、本市の平均正答率 41%、国との比較 8.3 ポイント、府との比較では 6 ポイント下回っております。全国の正答数は 10 問、府の正答数は 7 問でピークになっております。本市では 6 問でピークが見られまして、11 問以降については府や全国の正答率を下回るという傾向が見られております。

下の分類別に見ましても、対府比の平均正答率は、0.9 ないしは 0.8 台ということで、大阪府の平均から離れた結果が見られます。

次の 27 ページから 28 ページにかけて、全部で 21 問の問題がございました。この中で通過率について、全国で正答率が 70% を超えている問題は 3 問しかございません。本市では 70% を超えた問題は 0 問ということでございました。

課題の見られた設問につきましては、問題番

号3(1)、水素の燃焼の化学反応式です。正解はウなのですけれども、全国では80.1%の正答率に対し、本市は65.9%ということで、こういった化学式の係数について正しく表せることができないといった結果が見られます。

次の30ページは、成果の見られた設問なのですが、問題番号1(1)、静電気はどうやって起こるのかということで、静電気を帯びるものとして答えはイで「プラスチック製のさしで布をこする。」ということですが、こういった経験を踏まえた解答は、結構子どもたちはできており無解答率は、0.00%で全員答えております。ただ、正答率が41.1%ということで、エの解答が多数で「金属製のドアノブに触れる。」と、これは静電気を発生させるというよりは、放電する場面なので、そういったところでじっくり考えていけないといけないという傾向が見られました。

最後、31ページ的生活習慣や意識に関する調査(児童生徒質問紙調査)の結果です。これは一部抜粋しております。児童生徒は、全部で69問を答えております。その中から本日お示しさせてもらっているのは、合計16問で約4分の1の問題をお示ししています。

泉南市の特徴が分かる質問事項を一部抜粋しておりますが、特に数字に着色をしていますのは、府や全国に比べて少し割合が低かったもので、1つ目の質問「自分には、よいところがあると思いますか」ですが、小学校において泉南市は75.8%。着色をしていないのは、全国よりは低いけれども、大阪府よりは上回っているもので、数字を四角囲みしていますのは、大阪府も全国も上回っているものということでお示ししております。

それで見ますと、2つ目の質問「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」ということについては、ちょっと小学校で足りないなと思っています。

3つ目の質問「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」について、これは中

学校では結構高い割合を示したかと思っております。

また、4つ目の質問「人が困っているときは、進んで助けていますか」について、小学校では高く、中学校では低い傾向が見られました。

5つ目の質問「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」ということについて、これも小学校で低い割合ですが、中学校で高い割合となっております、学校間で大きく違いました。

6つ目の質問「友達と協力するのは楽しいと思いますか」については、小学校は全国や府を上回り、中学校は全国と同率という結果です。

8つ目の質問「学校で、授業中に自分で調べる場面、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」ということにつきましては、小学校、中学校ともに全国を大きく超える割合、特に中学校の「授業中に自分で調べる場面」ということですが83.9%でございます。全国は37.2%、府は33.6%なのですが、50ポイント以上の差をつけ、泉南市では非常にタブレットを用いて学習しているという状況がよく分かります。

また、上から12番目の質問は、児童生徒のふだんの学習生活状況の問いかけなのですが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」ということに関しては、中学校では高いという傾向が見られます。

また、一方で13番目の質問「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」ということも、小学校は低い割合で、中学校は高いという結果が出たところでございます。

32ページ、令和4年度学力向上の各種施策でございますが、これを受けまして今年度の学力向上の各種施策といたしまして、大きく3つのくくりで載せてございます。

1つ目は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現、2つ目は学力向上の取組と「非認知能力」の育成、34ページ、3つ目は豊かであ

くましい人間性の育成ということでございます。これらは、それぞれ教育委員会の取組と各学校の取組で、児童生徒の学びというものが一歩で二歩でも進むように、何とか取り組んでまいりたい思っております。

34 ページには、調査結果の分析を受け、教育委員会の今後の方針を書かせてもらっております。昨年度も書かせてもらいましたが、各種施策も時間をかけて継続的に取り組んでいくことが重要であります。中でも、生徒指導の課題、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導が求められており、教職員が子どもに向き合う時間を確保することが何より大切であるということで、今後は教職員の負担軽減という視点で校務支援システムの導入についても検討を行っていく必要があります。また、児童生徒それぞれの学びの結果がどういう形で見られるのかということも今後しっかりと検討してまいりたい思っております。

大変長くなりましたが、事務局報告（3）令和4年度全国学力・学習状況調査の結果についての御報告を終わります。

○**冨森教育長** ただいまの報告に対し、御質問や御意見等はございませんか。

湊委員、お願いします。

○**湊委員** 小学校の算数と中学校の数学の正答率のグラフですが、小学校の算数は大阪府や全国とほぼ似たような傾向になっているのですが、中学校の数学に関してはかなり正答数の少ない生徒が多数いるという傾向が見えました。小学校6年生の算数は、1.0には達していないけれども似たような傾向があるのに、中学3年生になると、数学の正答数が少ないのは、中学1年生、中学2年生が数学の勉強についていけないという認識でよいのでしょうか。

○**冨森教育長** 岩崎指導課長。

○**岩崎指導課長** ありがとうございます。おっしゃるように、中学3年生を調査対象としていますから、進学したときがちょうど新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が発令され、学校が臨時休校していたタイミングであります。これから中学校生活が始まるといったときに、4月は完全休校、5月からは分散登校、そして6月から通常登校といった意味では、やはり生徒には少し学びの影響はあったのではないかと考えています。

ただ、併せてこの間も学級閉鎖であるとか、色々な学びの機会というのが減少していったということと、全国的にそういう影響があったかと思うのですが、さっき申しました小学校からの積み上げ問題、いわゆる計算問題に対して素因数分解をするという課題が見られた、24ページに問題がありましたが、これの正答率が泉南市では27.1%、全国は52.2%ということですので、半数近くの割合で解答ができていないというところで申しますと、基礎の積み上げがなかなか難しいと感じているところです。

以上です。

○**冨森教育長** 湊委員いかがでしょうか。

○**湊委員** グラフからそういうところが読み取れますので、ぜひ中学校に入った時点で数学が嫌いにならないような教育に心がけていけば、この問題の解決の糸口になるのではないかと思います。

○**冨森教育長** ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

藪内委員、お願いします。

○**藪内委員** 私も数学が苦手で、興味があるところまでは理解できるのですが、ある時点になると途端に分からなくなるというか、理解できなくなるので、何とかしてそこを乗り越えられるような教え方というか、生徒が分かったと言

えるような授業をやっていただければ、少しは向上するのではないかと思います。

○**冨森教育長** 岩崎指導課長。

○**岩崎指導課長** 特に数学に関して言いますと、公式が教科書の中にあり、それぞれに意味があり、一つの公式ができています。おっしゃるように、教科書をまず第一に考えて授業を行います。その教科書から基礎を押さえ、そして自分自身で主体的に考えていく問題があります。例えばグループで協議をし、自分の考えを発言していくという授業の中で、そういった自分の考えをどんどん出しあい、ICT を使って皆で共有し、それに対して意見を言っていくという授業になっていっておりますので、そういった中で授業の持ち方として、担当の先生が生徒に積極的に授業に参加してもらえるような工夫、経験の浅い先生も含めて学校教育アドバイザーを派遣し、授業の在り方とか、研究の持ち方、そして教育研究会の先生方のそういった授業の在り方研究というものを引き続きやっていきたいと思えます。

○**冨森教育長** よろしいでしょうか。  
片木委員、お願いします。

○**片木委員** 全国学力・学習状況調査の結果が出た際、いつも申し上げるのですが、学力向上の各種施策ということで、いろいろきめ細かく書かれているのはよく分かるのですが、学力テストの結果をなぜ家庭と共有しないのか、それが一番気になります。31 ページの生活習慣や意識に関する調査（児童生徒質問紙調査）の結果の中で、最初に基本的な生活習慣の質問が6問出てきます。例えば毎日朝御飯を食べていますか、決まった時間に寝ていますか、起きていますか、携帯電話を使っていますか、ゲームの時間は何時間ですかなどです。さらに、学習環境、学習習慣に関する質問が8問あります。家に帰

ってから勉強しますか、本を読みますかなどです。今、岩崎指導課長が言われたように、質問が全部で69問あって、載っているのは16問ですが、例えば自分の子どもたちの生活に関わる問題、これはこの表と別に14問あるわけです。私はそういったことをもう少し掘り下げて家庭と共有していかないと、なかなか学力向上に結びつかないのではないかという気がいたします。

先月いただいた各学校の学校だよりの中に、ある学校の学力調査の結果について、ゲーム依存という表現で問題提起されておりました。その中で、ゲームに興じる時間が1日4時間以上という児童が4人に1人いました。それから全国では5人に1人、秋田県では10人に1人だったと、そう書いてありました。また、3校程度は学力調査の結果を必ず学校だよりで書かれていますが、学校だよりで取り上げる学校は少ないです。結果が良いか悪いかは別にして、それを受け入れて、保護者に対して何らかの情報発信をされています。やはり校長は、こういうことを一つのテーマとして、学校だよりに掲載していただくというのは非常に大事なことで思っています。

生活習慣、学習習慣と学力テストの結果は、相関関係にあるのは結果として分かっているわけですから、学力と生活の関わりというものを、ぜひ、保護者と共有してほしいと思えます。学校だよりは保護者への貴重な情報提供の手段ですから、活用をお願いしたいと思えます。

○**冨森教育長** ありがとうございます。また校長会等で話をさせていただきます。

それでは、ほかによろしいでしょうか。

では、続きまして、市立中学校生徒自死事案にかかる保護者会について、岩崎指導課長から報告がございします。

○**岩崎指導課長** 報告第2号、事務局報告(4)市立中学校生徒自死事案にかかる保護者会に

ついてを御覧ください。

10月3日行いました保護者会の資料でございます。1枚目が次第、2枚目については保護者の皆様へということで、ホームページにも掲載している文書でございます。裏面が相談機関の窓口一覧となっております。3枚目は相談機関と市立保健センターから頂戴しましたものを合わせて配付したものでございます。

当日、保護者の参加は65名でございました。それにつきましては、教育委員会からこれまでの経緯を説明させていただいた後、十数名の保護者からの御質問御意見をいただきました。

具体的には、「今回の件を個人だけの問題とせず、みんなで考えて防がないといけない。」「もっと市全体で意識を持って取り組んでほしい。」「子どもが学校の全校集会で校長先生からどのような話を聞いたのか、また子どもたちはどのような様子だったのか。」「学校は、いじめに対してもっと教育の場として子どもが受け入れられる学校、子どもが行きやすい学校、保護者が相談しやすい学校を作っていただきたい。」「なぜ、御遺族は市教委に不信を持たれたのかを教えてほしい。」「学校の先生方は個々に見ると、こんないい先生たちなのになぜという思いもある。」「もっとオープンにみんなで取り組むことが大切ではないか。」などの御意見がありました。

以上でございます。

**○富森教育長** ただいまの説明に対し、御質問や御意見等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

ないようですので、以上で、本報告を終了いたします。

**○富森教育長** 本日は、議案はございません。

それでは、次に、日程第5、その他、泉南オープンウォータースイミング大会2022の開催結果について、水田生涯学習課長から説明があります。

**○水田生涯学習課長** その他(1)、泉南オープンウォータースイミング大会2022の開催結果について御説明いたします。

10月8日、9日とオープンウォータースイミング大会が開催されました。すっかり秋めいた若干寒い中での開催となりました。申込みの人数は延べ200人、当日出場者が延べ183人で開催されました。水温は22度だったと思います。裏に当日の写真を載せてございます。ドクターによる問診や健康に気をつけながらということで、無事事故なく終えることができました。

2027年5月マスターズゲームズ、オープンウォータースイミング大会2021関西に向けて、毎年こういう形でやっていきたいと思っております。公益財団法人日本水泳連盟の方からも、ロケーションでは、六甲山が見え、関西国際空港が近く水質もよろしいということで高評価を得ておりますので、今後もオープンウォータースイミングと言えは泉南市という形を目指し頑張りたいと思っております。よろしく願いいたします。以上でございます。

**○富森教育長** ただいまの説明に対し、御質問や御意見等はございますか。

よろしいでしょうか。

次に、2022年度第2回実用英語技能検定(英検®)準会場受験の受験者数について、鳴戸人権国際教育課長から説明がございました。

鳴戸人権国際教育課長。

**○鳴戸人権国際教育課長** その他(2)2022年第2回実用英語技能検定受験者数について、御報告を申し上げます。

令和4年10月9日の日曜日に、泉南中学校を会場に無事実施することができました。申込者数は全体で148名でしたが、当日欠席が3名いまして、合計受験者数は、小学生56名、中学生89名の合計145名ということで、大きなトラブル等なく無事に今年度も終えることができました。

結果につきましては、一次試験の結果は10月下旬ということで、3級以上に合格した場合は二次試験を11月6日に実施するというので、こちらについては本会場、実用英語技能検定の主催で行なわれるということです。

以上、御報告させていただきます。

○**冨森教育長** ただいまの説明に対し、御質問や御意見等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

続きまして、JET プログラムメンバーについて、鳴戸人権国際教育課長から説明がございます。

○**鳴戸人権国際教育課長** その他(3)、JET プログラムメンバー一覧表を御覧ください。

今回、10月3日から任用を開始しました、クリスチャン・サリバン・ワグナーさんにアメリカから来ていただいており、信達中学校でALTとして勤務を開始しております。これで昨年度から予定していたメンバー全員がそろったということで、本格的に各学校でALTを活用した授業をしっかりと進めていってほしいと考えているところです。人権国際教育課としても、様々な形での研修で授業力の向上であったり、ALTそれぞれのスキルアップを図ってきたいと考えております。

以上です。

○**冨森教育長** ただいまの説明に対し、御質問や御意見等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これまでの報告のほかに、御質問や御意見等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

ないようでしたら、次回、泉南市教育委員会会議令和4年第11回定例会の日程について、お諮りしたいと思います。

原則、第3火曜日の前後としておりますので、11月15日の火曜日前後になりますが、日程について高山教育部参事兼教育総務課長から提案をお願いいたします。

○**高山教育部参事兼教育総務課長** 第3火曜日あたりということなのですが、第3火曜日が11月15日なのですが、11月14日から18日までの間で、皆様のご都合を教えてくださいませんか。

(日程調整)

○**冨森教育長** 片木委員。

○**片木委員** 新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきておりますので、学校訪問を実施していただきたいと思います。

○**冨森教育長** 日程調整させていただきますので、改めて御連絡させていただきたいと思います。

それでは、次回の泉南市教育委員会会議令和4年第11回定例会の開催日時は、令和4年11月17日木曜日15時からといたします。

以上をもちまして、泉南市教育委員会会議令和4年第10回定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後4時10分閉会

署 名 ( )

( )